

少子化対策地域評価ツールの活用促進に向けた 自治体の交流機会の拡充や環境整備に係るモデル事業

長野県 千曲市

1. 千曲市の概要

★平成15年に1市2町の合併により誕生し、今年で20周年を迎えます

項目	概要
人口	58,202人 (令和5年1月1日現在)
面積	119.79km ²
位置	長野県北信地方の南部
地理上の特徴	首都圏と中京圏・北陸圏を結ぶジャンクションがあり、鉄道・国道が市内を縦断する県内の交通の要衝
産業	<p>【農林水産業】 トルコギキョウ あんず</p> <p>【商工業】 生産用機械器具製造業</p> <p>【観光】 開湯120年の戸倉上山田温泉 日本遺産の姨捨の棚田</p>



2. 検討メンバー一覧

所属	部署名	役職	リーダー
企画政策部	総合政策課	課長	◎
次世代支援部	こども未来課	課長	○
企画政策部	総合政策課	係長	
企画政策部	総合政策課	担当係長	
次世代支援部	こども未来課	係長	
次世代支援部	こども未来課	主幹兼係長	
総務部	行政マネジメント室	係長	
企画政策部	市民協働課	係長	
健康福祉部	福祉課	係長	
健康福祉部	健康推進課	係長	
健康福祉部	人権・男女共同参画課	係長	
次世代支援部	保育課	係長	
経済部	産業振興課	主幹兼係長	
経済部	ふるさと振興課	主幹兼係長	
建設部	建設課	係長	
教育委員会	教育総務課	主幹兼係長	
教育委員会	生涯学習課	係長	

3. これまでの少子化対策の取組とモデル事業に応募した理由

これまでの少子化対策の取組

- ・子育て世代の金銭的負担の軽減支援として「赤ちゃん応援特別給付金」及び「子育て応援祝い品」として、お一人につき5万円の給付とお祝いの品をプレゼント
- ・妊娠から出産、育児までをサポートするため、電子母子手帳サービス「千曲市子育て応援アプリ」を導入
- ・妊娠期から子育てにわたる切れ目のない支援を実施するため、「子育て世代包括支援センター」を設置
- ・マタニティタクシー利用料金助成事業として、タクシー利用料金の一部を助成

モデル事業に応募した理由

- ・転入者がわずかに増加傾向にあることから、平成28年以降、社会増が続いているが、明確な要因がつかめていない
- ・合計特殊出生率は、県内77市町村中71番目、19市中では最下位となっていることから、合計特殊出生率の上昇は市の最重要課題となっている
- ・合計特殊出生率の上昇を目指し、子育て支援を充実させるなど様々な施策に取り組んでいるが、合計特殊出生率が低い要因をはっきりとつかめていない
- ・少子化対策に係る事業は各部署が個別に実施しているが、庁内に横断的な体制がない

→本実地検証を通じ千曲市の現状と少子化の要因と課題を明確にし、少子化対策に係る部局横断的な体制を構築したい

4. モデル事業で取り組んだこと

(1) 「地域評価指標のひな型」から千曲市の特徴を確認（5月～6月）

- ・本事業で提供いただいたツール（地域評価指標のひな形）を用いて、県内他市と比べて当市の強みや課題などを確認し、少子化の要因に関して幅広い視点から仮説を立案

(2) アンケート調査（8月～12月）

- ・少子化の要因仮説を検証するため、①結婚新生活支援事業補助金申請者、②市職員、③転入者、④乳幼児健診・離乳食相談対象者、⑤子育て支援センター利用者、⑥家屋取得者へそれぞれ調査

(3) ヒアリング調査（11月）

- ・不動産業者へ市内の賃貸物件及び住宅用地について聞き取り

(4) 既存の統計データ等から分析（7月～1月）

- ・「国勢調査」や「経済センサス-活動調査」などから分析し、出生や就業に係る現状を確認

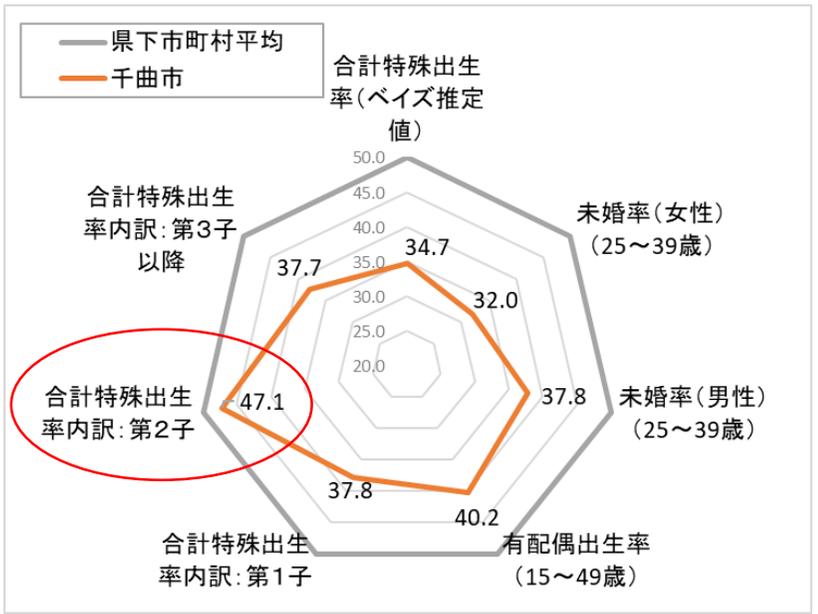
(5) 庁内ワークショップ（6月、7月、1月、2月）

- ・庁内検討メンバーにて計4回実施
 - ① 地域の強みや課題などについて議論
 - ② 課題仮説を踏まえた調査する内容を議論
 - ③ 主観調査等の結果及び今後の検討方針(案)について議論
 - ④ 今後取り組むべき課題について議論

5. わがまちの特徴と課題

(1) 「地域評価指標のひな型」から千曲市の特徴を確認

	合計特殊出生率(ベイズ推定値)	未婚率(女性) (25~39歳)	未婚率(男性) (25~39歳)	有配偶出生率 (15~49歳)	合計特殊出生率内訳 第1子	合計特殊出生率内訳 第2子	合計特殊出生率内訳 第3子以降	(参考) 出生割合 第2子
	H25~29年	H27年	H27年	H27年	H25~29年	H25~29年	H25~29年	H25~29年
長野市	47.4	42.8	62.6	52.1	55.5	47.5	36.6	0.37
松本市	47.3	49.5	56.6	59.4	56.3	48.4	34.3	0.38
上田市	46.5	55.6	53.9	51.5	50.2	47.8	43.4	0.38
岡谷市	51.9	52.6	44.6	43.5	50.9	49.1	53.8	0.37
飯田市	72.4	63.5	67.2	67.8	59.5	70.2	67.2	0.37
諏訪市	64.8	55.4	58.4	69.7	71.0	61.5	37.6	0.37
須坂市	41.5	43.4	45.7	49.9	38.8	48.9	50.5	0.39
小諸市	53.5	55.8	58.2	49.2	56.4	41.3	55.6	0.35
伊那市	60.6	61.9	53.9	47.7	56.6	55.7	58.3	0.37
駒ヶ根市	59.5	58.4	50.6	52.7	51.8	59.1	60.7	0.37
中野市	52.9	48.4	50.8	60.7	45.4	54.9	60.3	0.38
大町市	36.4	33.6	31.2	42.3	39.5	40.2	45.3	0.38
飯山市	39.9	29.1	33.1	48.7	34.2	50.3	53.1	0.39
茅野市	57.0	61.1	54.8	49.3	52.9	59.0	52.7	0.38
塩尻市	58.7	56.9	41.4	45.6	70.0	47.7	37.9	0.35
佐久市	50.9	58.5	56.0	51.1	48.8	53.0	51.3	0.38
千曲市	34.7	32.0	37.8	40.2	37.8	47.1	37.7	0.40
東御市	47.1	55.1	54.4	53.7	40.7	49.9	59.3	0.38
安曇野市	42.5	46.0	56.2	42.9	45.4	50.4	39.7	0.39
坂城町	34.5	40.4	32.6	21.9	38.3	17.9	64.6	0.33



※未婚率の偏差値：未婚率が高ければ偏差値が低くなるように算出しています

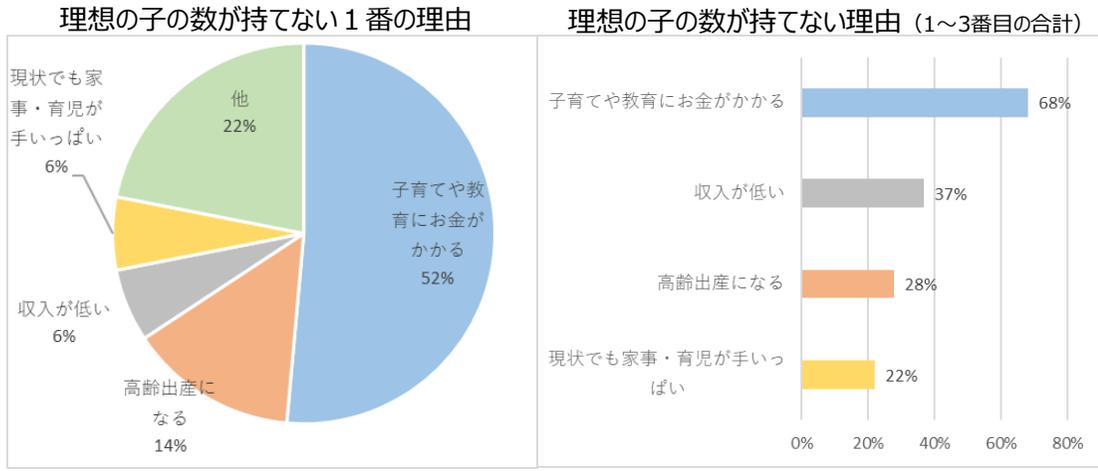
色分け：赤は19市中上位3市、緑は19市中下位3市
偏差値は県内19市と坂城町の20市町の実数から算出

- 出生に関連する指標は、全ての項目で偏差値が50を下回り、7項目中5項目が30台と非常に低い水準
(合計特殊出生率(ベイズ推定値)と有配偶出生率(15~49歳)は19市中最低位)
- 第2子の合計特殊出生率の偏差値は47.1で、7項目中一番高く、また、出生数全体に占める第2子の割合は19市中最も高いことから、**第1子と比べ第2子の出生が多いことが市の特徴**となっているが、偏差値は19市での順位は下から3番目であり、**他市と比べればまだ水準は低い**

5. わがまちの特徴と課題

(2) アンケート調査結果

- **理想の子の数が持てない1番の理由では、「子育てや教育にお金がかかるため」が約半数を占め、次いで「高齢出産になるため」、「収入が低い」の順となり、上位4項目で約8割を占めた**
- **理想の子の数が持てない理由の1番目から3番目に選択された件数は、「子育てや教育にお金がかかるため」が第1位、「収入が低い」が第2位と、金銭面が出生に対するハードルになっている**

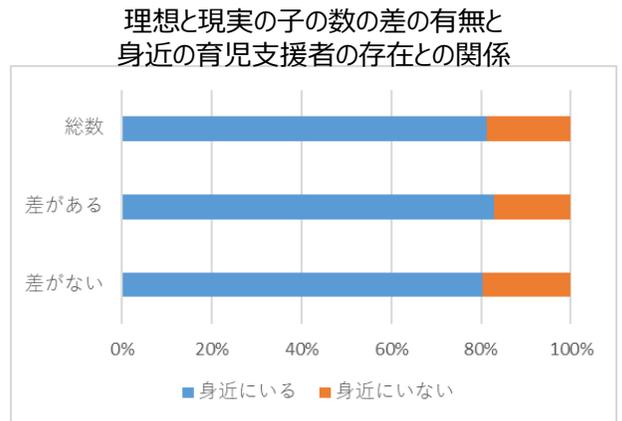


経済的な負担を理由に、理想の子の数をあきらめている夫婦が多い

- 転入時の世帯構成を「夫婦のみ」と「子どもあり」で比較したところ、約7割が「子どもあり」世帯であり、**子どもと一緒に転入してくる世帯が多い**
- 転入時「子どもあり」の世帯のうち、転入後に出産の予定がある世帯は約半数 (79世帯/162世帯 = 48.8%)
- 転入後に出産予定の子の数より、一緒に転入してきた子の方が多い (240人 > 198人)
- 転入時、賃貸住宅に居住していた**「夫婦のみ」世帯の多くは、職場の近くや通いやすいことを理由に千曲市を選んでいる** (次ページの表を参照)

子を持つ世帯の多くに千曲市が選ばれている

転入時世帯構成	世帯総数 (世帯)	うち出産の予定がある世帯 (世帯)	転入時の子の数 (総数) (人)	転入後に出産予定の子の数 (総数) (人)
夫婦のみ	66 (29%)	60	0	105
子どもあり	162 (71%)	79	240	93
計	228	139	240	198



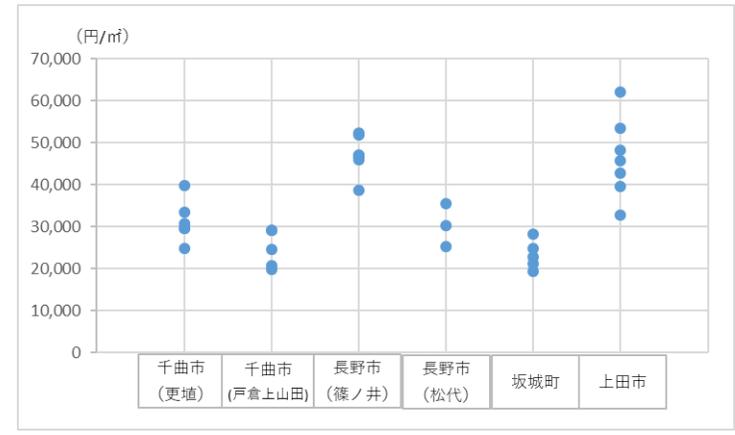
- 身近に育児支援者がいる世帯は約8割
- 理想の子の数が持てないことについて、身近の育児支援者の存在による違いは見られなかった

5. わがまちの特徴と課題

(3) ヒアリング調査結果

- 千曲市に隣接している**長野市南部の地域と比べると土地は安い**
- 長野市南部で土地を探していたが予算が合わなくなった人が土地に係る費用を抑えるため千曲市を選んでいる
- 「どこに住みたい」より「こんな家に住みたい」という**希望をかなえたい人が千曲市を選んでいる**
- 転入の候補地として最初から千曲市を考えている人は少ない
- カップル・新婚世帯は**職場の近くでアパートを借りる人が多い**
- 近隣の長野市や上田市と比べ**雇用の場が少なく、若い人が市外に転出している印象**がある

【参考】 住宅用地の価格



出典：国土交通省地価公示及び都道府県地価調査

近隣市と比較して土地代が安いため、家を建てたい人の希望は叶えやすい

【参考】 転入者向けアンケートによる 居住形態が戸建ての世帯が千曲市を選んだ理由 (件)

	総数	1位	2位	3位
親等が近くにいるため	74	28	37	9
他市町村で探していたがなかったため	61	46	10	5
近隣市町村より土地の単価が低いため	52	14	25	13
親等から土地・建物を取得したため	45	38	3	4
生まれ育った市なので	37	6	20	11
お互いの通勤に程よい位置	35	7	13	15
親等と同居・隣居するため	31	16	8	7
利便性が高いため	25	4	10	11
自分の職場が近いため	23	8	6	9
自然環境が良いため	16	1	12	3
その他	12	10	1	1
子育ての環境が良いため	11	4	2	5
配偶者の職場が近いため	7	2	1	4
近隣市町村より賃料が低いため	5	0	1	4
子育て支援が充実しているため	0	0	0	0

【参考】 転入者向けアンケートによる 居住形態が民間の賃貸住宅の世帯が千曲市を選んだ理由 (件)

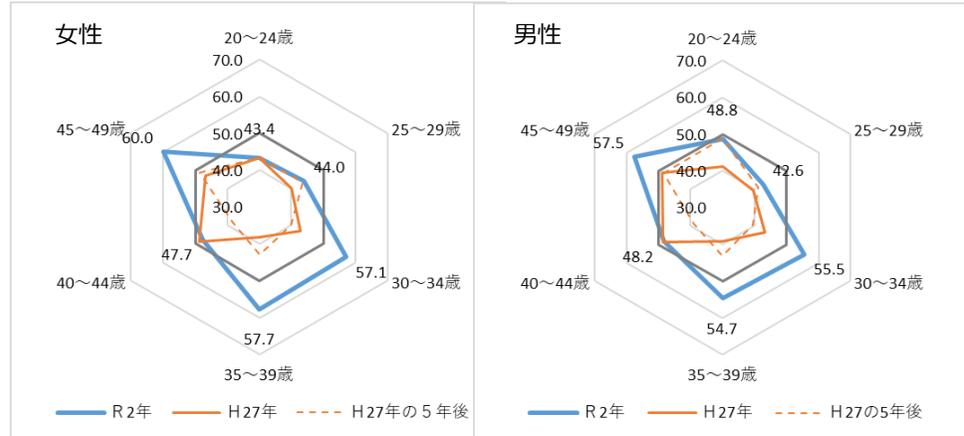
	総数	単身	夫婦のみ	子あり
自分の職場が近いため	53	31	12	9
親等が近くにいるため	49	6	16	20
お互いの通勤に程よい位置	43	10	21	8
他市町村で探していたがなかったため	35	11	11	9
利便性が高いため	27	10	10	6
生まれ育った市なので	25	4	12	7
配偶者の職場が近いため	25	4	19	1
近隣市町村より賃料が低いため	22	6	13	2
自然環境が良いため	17	7	6	3
近隣市町村より土地の単価が低いため	12	0	6	4
親等と同居・隣居するため	10	4	4	2
その他	7	1	3	3
子育ての環境が良いため	6	0	2	4
親等から土地・建物を取得したため	5	1	1	2
子育て支援が充実しているため	2	0	1	1

5. わがまちの特徴と課題

(4) 既存の統計データ等から分析

- 20～40代の**有配偶率**は、男女共に平成27年では全世代で県平均を下回っていたが、**令和2年では30代、40代の世代が大きく上昇**し、30代と40代後半は県平均を上回った
- **転入者数が緩やかな増加傾向にあり2016年から7年連続で社会増**
- 平成27年と令和2年の**20～24歳女性の転入超過率**は平成22年と比べ**大きく低下**
- **令和2年の10歳未満と30代の転入超過率は男女ともに高く**、平成27年と比べ大きく上昇

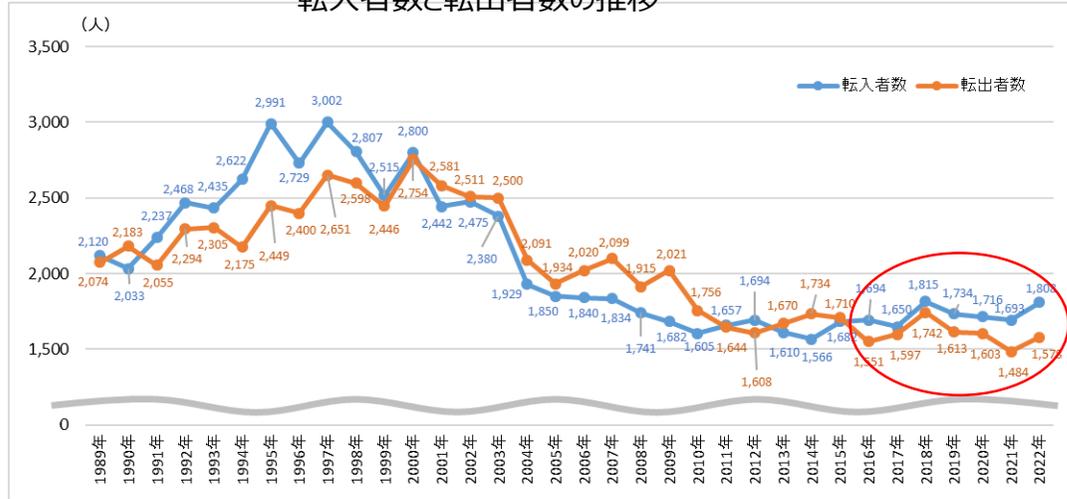
有配偶率の県内19市における千曲市の偏差値



出典：総務省統計局「国勢調査」

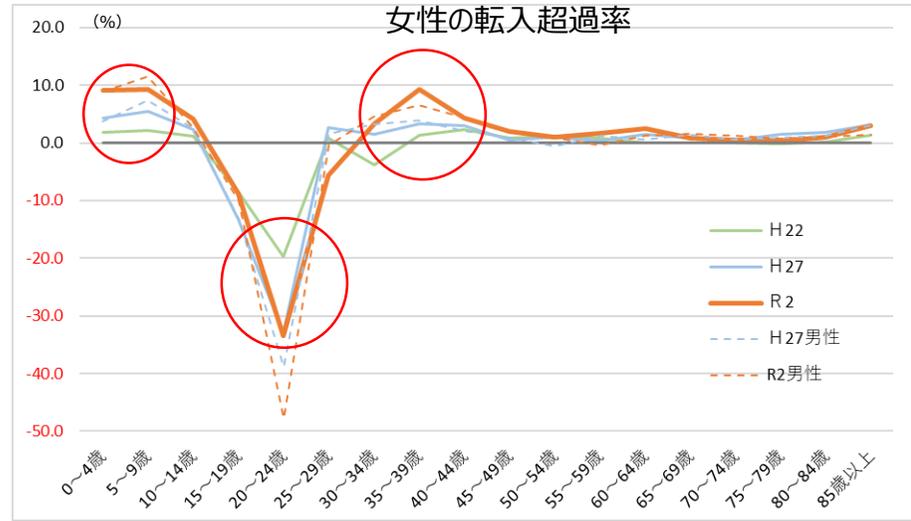
子を持つ世帯の転入増加が社会増の要因の1つになっている

転入者数と転出者数の推移



出典：長野県「毎月人口異動調査」

女性の転入超過率



出典：総務省統計局「国勢調査」

5. わがまちの特徴と課題

(5) 強みと現状と課題の整理

強み

- 未就学児を持つ世帯が転入しやすい
 - ・長野市南部など近隣地域と比べて土地が安い
 - ・長野市など近隣へのアクセスが良く通勤しやすい
 - ・実家が土地を持っている
- 理想のライフスタイルを築きやすい
 - ・土地が安くて広いので希望の住宅が建設できる
 - ・土地が安いので借入額が抑えられ、子育て費用への余裕が生まれる

など

強みを活かし
続ける

+ P R

強みをさらに
伸ばす！

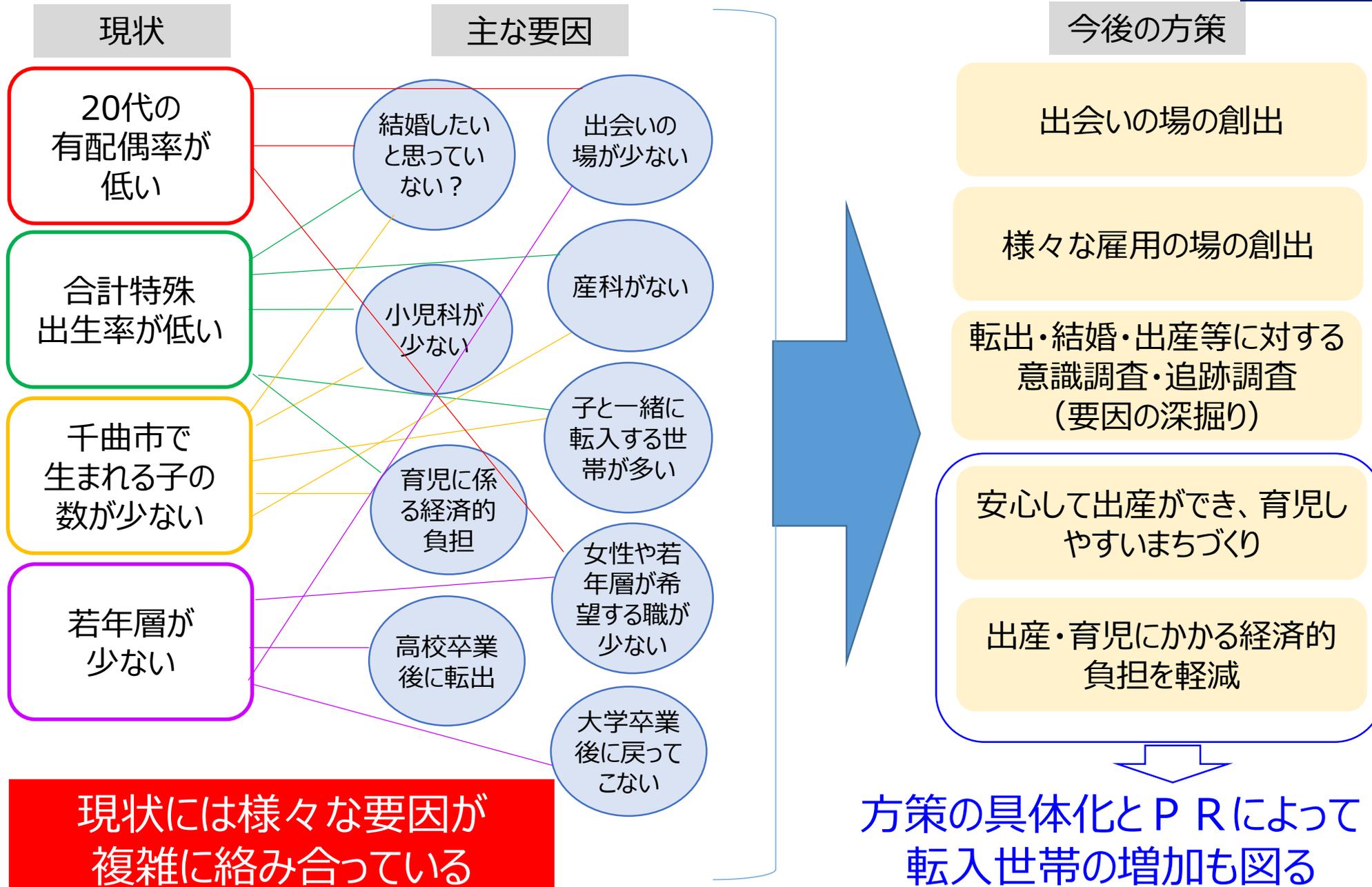
現状と 課題

- 20代の有配偶率が低い
- 出生数が少ない
- 20歳前後の若年層が転出超過
- 転入してきた方が安心して子育てできているか不明瞭
- 強みのP Rが不十分

など

対応策が必要

6. 課題を踏まえた対応策



7. 今後の展望

部局横断的な体制を構築

- 本事業で構築した検討体制を引き継ぎ、令和5年度も部局横断的な体制を構築する

具体的施策の検討

- 本事業を通じて得られた結果や討議した内容も踏まえ、既存の施策とも照合させながら、新たな施策・強化すべき施策の検討を行う
- 本事業で得られた課題等を深掘りするため、主観調査を実施し、得られた結果から具体的施策の検討を行う

施策の実施

- 検討した結果、令和5年度に実施可能なものは順次取組を開始する
- 検討した施策を令和6年度以降実施できるよう、予算化を行う

住みたい
産みたい
育てたい
まち
ちくま

有配偶率が上昇

出生率が上昇

出生数が増加

若者が増加

8. モデル事業で得たこと

● 少子化対策について部局横断的に対応

各部署で少子化対策に係る事業を実施しており、その多くは個別での実施にとどまっていたが、ワークショップで意見交換や議論を深めることができ、本事業を通じて部局横断的に情報を共有することもできた。

● 少子化対策に係る強みや問題点の明確化

「地域評価指標のひな形」の活用により、県内他市と比較して当市の特徴が確認でき、その特徴の要因について、既存の統計データや、実施したアンケート調査及びヒアリング調査から客観的に分析し、明確にすることができた。

(参考) 年間目標・スケジュール

時期	5月	6月	7月	8月	9月
到達目標 (マイルストーン)	◎ 少子化対策事業の現状把握、課題整理	◎ 出生に関連する市の特徴を整理	◎ 仮説の検証に必要なデータの収集を計画	◎ データ収集（アンケート調査等）の準備	◎ アンケート調査の準備
実施内容	■ 現状の棚卸 ■ 現状分析	■ キックオフミーティング ■ 現状分析 ■ 市の特徴の整理	■ 仮説の立証及びそれに必要なデータ収集方法の検討（アンケート調査、関係団体等との意見交換会など）	■ データ収集（アンケート調査等）の準備	■ アンケート調査の準備
市WS		○	○		
県WS				○	
時期	10月	11月	12月	2023年 1月	2月～3月
到達目標 (マイルストーン)	◎ アンケート調査の準備	◎ アンケート調査の実施	◎ アンケート調査等結果の分析 ◎ 少子化の要因仮説の検証	◎ 少子化の要因仮説の検証 ◎ 今後の方向性の整理 ◎ 今年度の成果のまとめ	◎ 今年度の成果の発表 ◎ 少子化対策の新規施策の立案、既存施策の見直し ◎ 来年度以降の組織体制の立案
実施内容	■ アンケート調査の準備	■ アンケート調査等の実施 ■ 調査結果データ入力・分析	■ アンケート調査等の実施 ■ 調査結果データ入力・分析 ■ 少子化の要因仮説の検証	■ 少子化の要因仮説の検証 ■ 今後の方向性の整理 ■ 今年度の成果のまとめ	■ 今年度の成果の発表 ■ 課題解決のための施策を検討 ■ 来年度以降の組織体制の検討
市WS				○	○
県WS					○

(参考) 市ワークショップでの取り組み内容

- 各メンバーがグループに分かれ、千曲市の強み・課題について議論し、出た意見を分野別・ライフステージ別に整理



(参考) 市ワークショップでの取り組み内容

● 地域評価指標のひな型や既存の調査結果を参考に、市の特徴や出生に関連する要因仮説などについて議論

分野	わがまちの特徴 (事実を記載)	考察 (特徴から考えられることを記載)
賑わい・生活環境	19市で比較すると、「大型小売店数」、「15～19歳人口1万人当たりの高校数」は少ないが、「衣料品・化粧品・小売業事業所数」は多い。 ・交通の要衝 ・ベッドタウン的な位置 (存在) ・塾が多い→子供が多い? ・駅前 (中心市街地) に若者がいない	・大型店 (ショッピングモール) が少ないので賑わいが少ない ・若者の求める店が少ない ・休日の買い物や食事をする場合に上田市や長野市へ行くことが多い ・映画館がない、図書館が小さい、大学がない ・駅前がさみしい ・ガレリアがにぎわっている (学生が集まりやすそう) ・ドラッグストアやスーパーなど生活用品の店が多い ・身近な買い物は仕事帰りに寄れる店が穴山あり便利 ・1人1台車が必要 ・歩道が広く確保されていない (ペーパーク、車いす不便) ・新しい道ができた、交通の便が良い、長野市に近い ・温泉街のイメージが悪い、温泉街がうまく活用できていない
家族・住生活	19市で比較すると、用いている指標全てで高い (持ち家世帯率、住宅延べ面積 (100平米以上の割合)、一戸建て比率、3世代同居率) ・自然が豊か ・新築が増えている ・農地から宅地への転用が活発 ・子育て世代が多い →孫の面倒を見てくれる、安心	・土地が安く家が建てやすい ・子育て世代の転入が多い (住みやすいという点か?) ・農地を宅地にして家が (新築) が増えている ・持ち家が欲しい人には魅力的 ・市街地でない地域は高齢者が多い ・古い家が多く、空家が多くなった ・古く大きい家が点在している ・アパートが少なく、外から若者が来にくいのでは? ・アパートが元々少なかったが増えた
地域・コミュニティ	19市で比較すると「身近にいる子ども数」だけが平均を超えているが、概ね平均並み。 ・見守りしてくれる地域のおじさんが減った	・地域住民の子育て協力もあるのでは ・山の方は結びつきが豊か、中心地はそうでもない ・公民館を利用しやすい (数が多い? 気軽に借りられる) ・文化会館が3ヶ所あり、スポーツ施設も多い (マレットゴルフ、体育館) ・区の活動、公民館活動が活発 (お祭りが多い) ・地域行事が減った ・若者 (2,30代) が少ない消防団等の担い手がいらない ・日中市外に働きに出ており、活動・有事の際に参加できない人が多い ・千曲線沿線に新築が多く転入が多いがそれにより地域と疎遠になる ・子どもの数に地域差が大きい ・スポーツ少年団が減っている ・休日、近くで子供が遊んでいない ・SNSに載るような店や場所が少ない ・街中は車で走りつらい
医療・保健環境	19市で比較すると、3項目とも平均以下。 ・保健師数 (人口1万人当たり) ・20-44歳女性人口1万人当たり産婦人科医師数 ・0-9歳児人口1万人当たり小児科医師数 ・人が集まる場が少ない ・産婦人科がない	・小児科が少なく緊急・夜間診療の出来る所がない (近隣にはある) ・出産できる産科がない (近隣にはある) ・総合病院がない (近隣にはある) ・長野市や上田市の病院へ行ってしまう ・出産、子育てで不安を感じる ・内科とか個人の医者が増えた ・電車など公共交通機関の利用が少ない、不便な地域もある
子育て支援サービス	19市で比較すると「0-2歳人口1万人当たり地域子育て支援拠点数」は低い、「保育所等利用児童割合 (0-5歳人口比)」と「0-17歳人口1万人あたり障害児入所施設、児童発達支援センターの施設数」は高い。	・子育てで応援している ・赤ちゃん応援事業 (カタログギフト、5万円 (コロナ対策)) ・ファミリーサポート事業の利用者が増加している ・公立保育園が古い ・未満児の保育園が増えた。しかも国際的 ・長時間保育の利用が増えた ・保育園待機児童ゼロ ・(数値で見ると) 保育園数も充実していると考えられる ・企業保育を増やす ・大きな公園がない ・ママ友サークル多い
働き方・男女共同参画	19市で比較すると、「通勤時間」は他市より多くかかっているが、他の指標は概ね平均並み。 ・専業主婦の孤立感	・男性の育児取得に積極的に取り組む企業が少ない ・女性はパートが多い。女性社長が少ない (企業訪問すると) ・飲食店等サービス業が多いので女性従業者が多いのでは ・中小企業から女性登用、育児が進まない ・市内に働く場が少ないので長野市や上田市など他市への通勤が多い ・道が混んでいる。通勤時間が長い
経済雇用	19市で比較すると、「昼間人口比」、「20～44歳の完全失業率」は良くないが、「男性の正規雇用者比率」は高い	・大企業が少なく、(特に若い人の) 働く場が少なく市外へ働きに行く ・若者の失業率が高いのは地元で働き口が少ないのでは ・共働きがほとんど ・慢性的な働き手不足 (ハローワーク求人数も多い) ・職種求人に関わり、希望の職につけていない ・女性の正社員が少ない

出生に関連する指標	出生に関連する指標の特徴 客観分析：県・全国値との比較/経年比較	地域の様々な指標を踏まえた出生に関連する指標の要因仮説	参照したデータ	
有配偶率	日本人女性の有配偶率について、平成27年では20～49歳の全ての階級で県の値を下回っていたが、令和2年では30歳代と40歳代後半で県の値を上回った。 平成27年と比べると、県の値は20～49歳の全階級で低下したが、千曲市は30歳代が大きく上昇した。(19市中で1番)	・人が集う場が少なく出会いの機会が少ない ・結婚に対する意識の変化。(しなくてもいいと思う人が増加傾向、したい人が減少傾向) ・結婚を望む(したい)人が少ない(男女とも) ・自分の時間やお金が優先で結婚したくない ・結婚する人が少ない(未婚者、独身男性が多い) ・若い人は収入が低く、経済的な理由から結婚に至らない人も多いのでは ・20代で結婚する人が減ったから30代で増えたのでは ・インターネット上で結婚の悪い面ばかり流れている ・子育て世代(既婚者)が移住してきた ・千曲線の開通などで新築家屋等が増加。=他市からの子育て夫婦が転入 ・新婚の人が住むアパートが少なかった ・仕事帰りに寄れる店舗が多い	・地域評価指標のひな形	
合計特殊出生率/有配偶出生率	一人目	H25～29年の出生順位別出生数割合をみると、県の割合より約1.6ポイント低い。 H25～R1年までの出生割合の推移をみると、年によってばらつきはあるが、県同様の傾向。	・子どもを産みたいと考える女性が少ない ・結婚しても子供をいらないという人が増えた ・結婚時に市外のアパートへ引っ越ししてしまう ・収入が低い	・地域評価指標のひな形 ・長野県「衛生年報」
	二人目	H25～29年の出生順位別出生数割合をみると、県の割合より約2.3ポイント高い。 H25～R1年までの出生割合の推移をみると、年によってばらつきはあるが、県同様の傾向。	・他市で第1子を出産し、千曲市に家を建て、第2子を出産する人が多い ・上の子の小学校入学前に持ち家を考える ・子育て世帯の興味はマイホーム ・1人は欲しいが2人目以降は子育てが大変 ・働きながら子育てが大変 ・親と同居して2人目を出産	・地域評価指標のひな形 ・長野県「衛生年報」
	三人目以上	H25～29年の出生順位別出生数割合をみると、県の割合より約0.8ポイント低い。 H25～R1年までの出生割合の推移をみると、年によってばらつきはあるが、県同様の傾向。 全体の出生数が減少している中、第3子はほぼ横ばいとなっている。	・三世代同居または両親が近くに住んでいるので育児に親の助けがある ・のんびり生活するには良い所 ・子どもがのびのび育つ ・共働きが多い ・保育園に入りやすく未満児から預けて働くことができる ・広い土地が買いやしく、広い家が建てられる ・子育てしやすい環境を考えている	・地域評価指標のひな形 ・長野県「衛生年報」
転出入	若年層	人口ピジョンによると、2020年は15～29歳で転出超過。特に、20～24歳は105人と転出超過全体の約半分を占めている。 出産できる年代の女性数をどのようにしたら増やすことができるか	・進学等で県外に行き、住所はそのまま就職のときに転出する ・結婚してしばらくはアパートに住む(職場の近く、長野市とか) ・市内に大学などの高等教育機関がなく、進学時に市外に出て、そのまま帰ってこない ・市に魅力がない ・働き先が少ない ・実家を出て市外のアパートなどに住む人が多い ・転出超過が▲105人だが、転入者は224人いるので、この分析をしてここを増やすことができるとよい	・第2期千曲市人口ピジョン
	子育て世代	人口ピジョンによると30～54歳で転入超過。特に30～34歳は55人、35～39歳で46人と他と比べても多い。また、併せて、0～4歳で104人、5～9歳で34人の転入超過となっている。	・実家など育った土地に戻ってくる ・子どもが小学校入学のタイミングで転入してくる ・長野市、上田市から遠く、土地が安いので家が建てやすく、千曲市で家を建てたいと思う人が多い ・2人目と連動	・第2期千曲市人口ピジョン

(参考) 市ワークショップでの取り組み内容

● 課題仮説を踏まえ、調査する内容を検討

No	調査・検討のねらい (検証する仮説)	調査の内容	協力者	実施時期	担当者
1	新婚の人が住むようなアパートが少ないため、結婚する人・した人が市外に出てしまい、20代の未婚率が高いのではないか	・市内アパートの需要と供給の状況 ・千曲市でのアパート探しで苦労した点	・地域の不動産屋 ・各アンケート調査対象者	11月～12月	総合政策課 健康推進課 こども未来課 ふるさと振興課
2	結婚に対する価値観が変化し、結婚したくない人が増えてきているから20代の未婚率が高いのではないか	年代別未婚者の結婚に対する価値観の違い	市の職員	12月	総合政策課 行政マネジメント室
3	市外で第1子を出産してから千曲市に転入してくる世帯が多いため、第1子の出生率が低いのではないか	千曲市に転入してきた時の家族構成	・各アンケート調査対象者	11月～12月	総合政策課 子ども未来課 ふるさと振興課
4	子育ての協力者(祖父母、親族など)が近くにいるため第2子以降の出生割合が高いのでは	子育ての協力者の存在、出産・子育てに対する不安なこと	・各アンケート調査対象者	11月～12月	総合政策課 健康推進課 こども未来課 ふるさと振興課
5	長野市と比べ土地が安いので家を建てる世帯の転入が多いのではないか	・近隣との単価比較、千曲市の需要 ・所有地として千曲市を選んだ理由 ・新生活地として千曲市を選んだ理由	・地域の不動産屋 ・各アンケート調査対象者	10月～12月	総合政策課 税務課 健康推進課 ふるさと振興課 こども未来課
6	子育て世帯の転入が多いことは、子育て支援策が充実しているからではないか	千曲市に転入してきた理由	・各アンケート調査対象者	10月～12月	総合政策課 健康推進課 子ども未来課 ふるさと振興課
7	雇用の場が少ないので大学卒業後に戻らない女性が多いのではないか	従業員男女比	既存調査結果	10月～11月	総合政策課

● 検討した調査を実施

問10 ※問9で「1 持ち家(一戸建て)」、「2 持ち家(その他)」を選択された方

<p>千曲市を選んだ理由で特に当てはまるものを3つ教えてください (1つしかない場合は1つでも結構です)</p> <table border="1"> <tr> <td>最も当てはまる</td> <td>次に当てはまる</td> <td>その他に当てはまる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	最も当てはまる	次に当てはまる	その他に当てはまる				<p>1 自分もしくは配偶者の親等から土地・建物を取得(譲渡、購入、相続、賃借など)したから</p> <p>2 近隣市町村より土地の単価が低いため</p> <p>3 近隣市町村より広い土地が取得できるため</p> <p>4 自分もしくは配偶者の親等が近くにいるため</p> <p>5 自分もしくは配偶者が生まれ育った市なので</p> <p>6 夫の職場が近い</p> <p>7 妻の職場が近い</p> <p>8 お互いの通勤に程よい位置</p> <p>9 利便性が高い</p> <p>10 子育ての環境が良い</p> <p>11 自然環境が良い</p> <p>12 子育て支援が充実しているため</p> <p>13 その他()</p>
	最も当てはまる	次に当てはまる	その他に当てはまる				
<p>住宅取得について、千曲市以外も検討していた場合、どこと迷われたかを教えてください (複数選択可)</p>	<p>1 他は検討していない</p> <p>2 長野市(篠ノ井塩崎)</p> <p>3 長野市(篠ノ井(塩崎を除く))</p> <p>4 長野市(松代)</p> <p>5 長野市(安茂里・長野駅周辺)</p> <p>6 長野市(川中島)</p> <p>7 長野市(その他)</p> <p>8 坂城町</p> <p>9 上田市</p> <p>10 その他()</p>						



● 調査結果を取りまとめ、今後の方針を検討

調査名称	人口減少対策に係るアンケート調査(転入者向け)
調査・検討のねらい (検証する仮説)	①千曲市でのアパート探しで苦労した点があるが調査する。 (仮説1: 新婚の人が住むようなアパートが少ないため、結婚する人・した人が市外に出てしまい、20代の未婚率が高いのではないか) ②転入時に既に第1子がいる世帯が多いのか調査する。 (仮説3: 市外で第1子を出産してから千曲市に転入してくる世帯が多いため、第1子の出生率が低いのではないか) ③子育ての協力者の存在、出産・子育てに対する不安なこと (仮説4: 子育ての協力者(祖父母、親族など)が近くにいるため第2子以降の出生割合が高いのでは) ④他市と比べ、坪単価が低いため住宅を新築する世帯に千曲市が選ばれているのか調査する。 (仮説5: 長野市と比べ土地が安いので家を建てる世帯の転入が多いのではないか) ⑤子育て支援策が充実していることが転入のきっかけとなっているが調査する。 (仮説6: 子育て世帯の転入が多いことは、子育て支援策が充実しているからではないか)
対象	転入世帯の世帯主
実施時期	11月
調査方法	郵送調査
調査項目	別紙のとおり
回収数	25.4%(409世帯/1617世帯)
調査結果概要	<p><仮説の検証結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者(転入時賃貸住宅に居住していた夫婦のみの世帯)のうちアパート探しに苦労した人は約半数であり、仮説立証は高いと認めない。なお、対象者が千曲市を選んだ理由の多くは職場の近くや通いやすさ。 ・転入時に夫婦のみの世帯より子どもがいる世帯の方が多く、第1子の出生率が低いことに影響していると思われる。また、子どもがいる世帯でも千曲市で子育てを予定する世帯が約半数のため全体的に出生率が低い要因になっていると思われる。 ・第2子以降の出生割合に子育ての協力者の存在はあまり影響していない。 ・持ち家の方が千曲市を選んだ理由として「近隣より土地が安いから」という理由も多いが、「他で探していたがなかったため」という理由の方が多い。 ・子育て支援の充実が転入のきっかけになっていることはほとんどない。 <p><新たに得られた発見や洞察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・転入の約半数が子どもがいる世帯。



調査結果を踏まえた今後の検討方針	<p>○調査結果の分析(過去の調査結果や傾向との比較等)を踏まえて記載する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い単身者の転入増のため、企業や学校の誘致。 ・子育て世帯の転入増のため、小児科等病院の誘致、屋内で遊べる施設の建設、大型公園の新設、既存公園の遊具更新などニーズを踏まえた検討。 ・働く者の環境づくりのため、男性の育児休暇取得促進や女性の産休・育休後、復帰した際の雇用の安定などについて企業への働きかけ。 ・空き屋(中古物件)を購入すると生涯支出が抑えられることをアピール。(生涯支出が抑えられれば金銭面の不安が解消できる) ・出産に對し子育て等の支出がネックになっている方が多いことから、まず給食費の補助など短期的な施策の検討。 ・大学卒業後に千曲市へ戻ってこられるよう、子どもの頃から千曲市に魅力を感じてもらえるまちづくり。
------------------	--

(参考) 市ワークショップでの取り組み内容

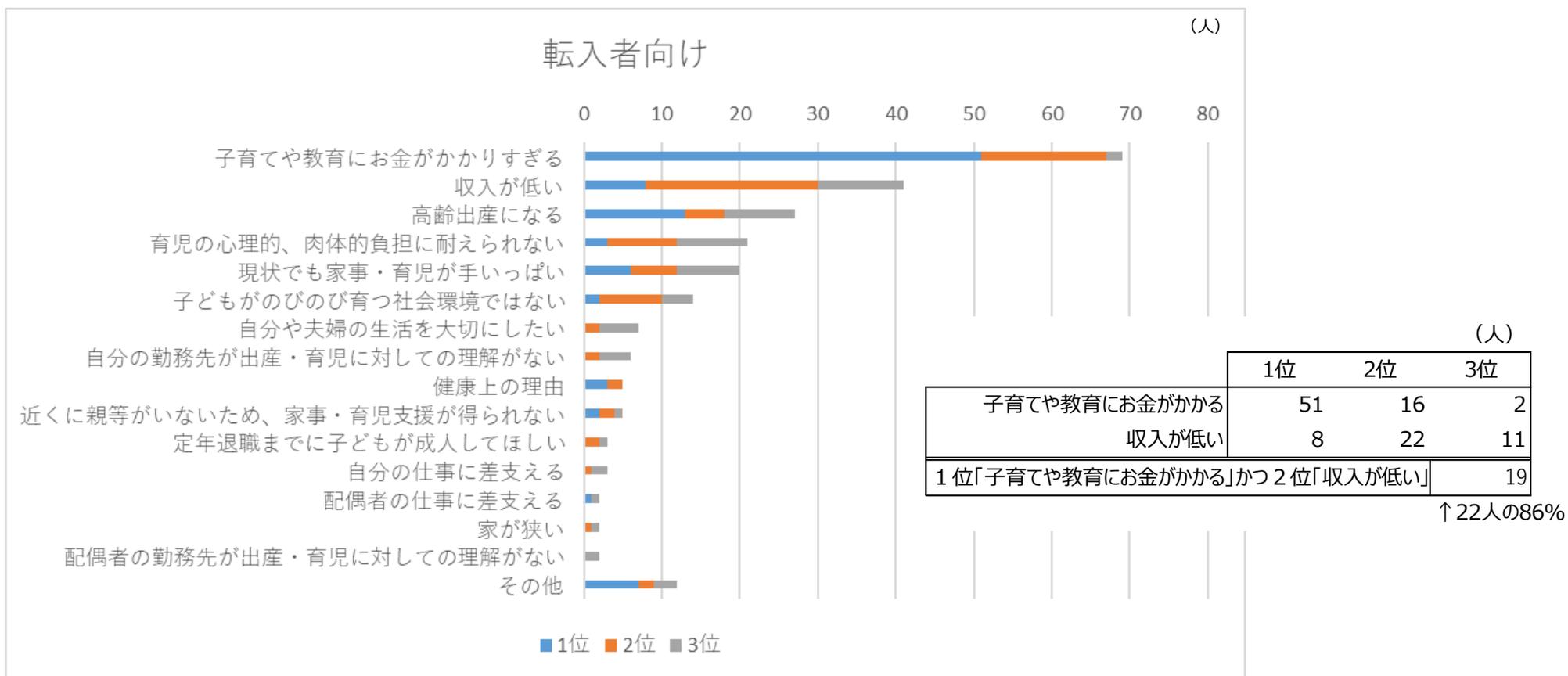
● 地域住民の実態と理想像に応じた対応策の方向性を整理

項目	地域住民の実態と理想像	取り組むべき課題	地域で活用できる資源や強み	対応策の方向性	優先順位(案)
有配偶率	結婚 <実態> ●就職を機に市外に出発し、そのまま市外で結婚する人が多く、20代の有配偶率が低い。 ●他方で、近年は子育て世帯の転入が増えているため、30代の有配偶率は上昇している。 ●なお、市内にとまどまっている人の未婚の要因については深堀できていない。(市職員を対象とした調査からは、「結婚したくない」と考えている人は少ないと思われる) ●雇用の場と出会いの場が少ない <理想像> ◆千曲市に住む人が結婚したいときに結婚できる ◆多くの若者が千曲市にとまど、千曲市で結婚する	●結婚したいけどできないのか、結婚したくないのかなど、未婚の要因を掘り下げる再調査の実施。 ●就職を機に市外に出る人が少なくなるよう、若者が希望する業種を増やす、若者が魅力を感じる施設を増やすなど、若者が千曲市に住み続けたいと思えるまちづくりを行う。 ●男女の出会いの場を創出 ●技術者など企業が欲しいと思っている働き手を早い段階で確保	●長野市等に比べて賃貸マンション・アパートの賃料が安い。 ●スーパーなどが多く食品等の買い物便利。 ●子育て世帯の転入が多い。	●結婚に関する実態調査 ●若者が魅力を感じるまちづくり ●アプリなどデジタルを活用し、定期的に開催されるカジュアルな出会いの場の創出 ●男女が出合う場を提供	③
	出産 <実態> ●子育てにお金がかかることを不安に感じている方が多く、理想の子の数を産めない最大の理由となっている。 ●子どもと一緒に転入してくる世帯が多く、そのうち約半数は転入後に出産しており、転入世帯では、千曲市で産まれた子の総数より転入時の子の総数が多い。 ●産科が市内に無いため、産院に時間がかかっている。 <理想像> ◆経済的負担が軽減され、理想の子の数を産出できる。 ◆安心して子どもを産める環境が整っている。	●産休・育休後、職場復帰した際の雇用の安定などについて企業への働きかけ。 ●生涯支出が抑えられる空き家(中古物件)の購入のサポートをアピール。 ●出産・育児に係る経済的負担を軽減。 ●産科の誘致。 ●オンラインで病院へ相談できるなど、市内に病院がなくとも医療を身近に感じられる仕組みの検討。	●子育て支援策 ・入院助産制度 ・マタニティクーポン利用助成事業 ・産前産後ヘルパー派遣事業 ・産後ケア事業	●出産・育児にかかる経済的負担を軽減。 ●雇用面も含めて安心して出産できるまちづくり。 ●出産・子育てに対する相談体制の充実	①
自然増減	有配偶出生率 <実態> ●身近に夫婦どちらかの親等の子育ての協力者がいる世帯が多い。 ●夫婦ともに市外出身のため子育ての協力者が近くにいない世帯の多くは行政による家事や育児の支援を望んでいる。 ●子育てに係る経済的支援を望んでいる方が多い。 ●実際に子育てをしている方は、千曲市の子育て支援に対する満足度が高いが、公園や屋内施設など環境整備については不満の声も多い。 ●子育て世帯の転入地域に偏りが見られる。 ●未滿児保育を希望する家庭が増えている。 ●保育士が不足している。 ●小児科が少ないと感じている方が多い。 ●どんな子育て支援があるか知らない。 <理想像> ◆子どもを預ける場所が充実している、子育てを支援してくれる人がいるなど、子育てに対する負担が少ない。 ◆小児科など医療機関が充実しているなど、子育てに対する不安が少ない。 ◆必要な時に使える子育て支援サービスがすぐわかる	●子育ての協力者が近くにいない人向けの家事・育児支援。 ●小児科病児対応施設。 ●オンラインで病院へ相談できるなど、市内に病院がなくとも医療を身近に感じられる仕組みの検討。 ●屋内で遊べる施設の建設などニーズを踏まえた検討。 ●公共施設や民間商業施設等の子育てに係る設備等の整備状況の紹介 ●ファミリー・サポート・センター事業の登録者数を増やす。 ●夜勤の方などにも対応できるような保育園の運営時間や保育士の勤務条件の検討。 ●保育園に子どもを預けない人向けの支援の充実。 ●女性の育児休暇取得促進を企業に働きかけ。 ●女性が子どもを産んでも働き続けられる企業を増やす	●ファミリー・サポート・センター ●子育て支援センター(市内2か所) ●子育て支援施設 ・子育て支援ショートステイ事業 ・子育て支援トワイライトステイ事業 ・レスパイト事業 ・福祉医療費給付事業	●高校卒業時まで、育児にかかる経済的負担を軽減。 ●小児科が市内に少ないなど医療機関に関する不満を軽減。 ●どんな支援策があるか必要な方に伝わりやすいPR ●子育て支援策の更なる充実 ●子を産み育てやすいまちづくり ●子どもを預けられる場所の充実 ●子育てに対して安心感のある環境づくり ●出産・育児にかかる経済的負担を軽減。 ●夜間保育などの検討	②
	子育て <実態> ●高校卒業後、進学や就職等で市外に出る人が多く、近年は転出する女性が増加傾向。 ●大学卒業後に戻ってくる人が少ない。 ●市外に勤務している方が、結婚を機に職場近く(市外)へ転出する。 ●まさに魅力を感じていない若者が多い。 ●女性(特に若年層)が希望する職種が少ない。 ●働く場が少ない。 ●若年層が利用したいと思う小売店や飲食店が少ない。 <理想像> ◆大学等を卒業し就職しても、千曲市に戻ってくる若者が多い	●調査方法と調査内容を再検討し、若年層が戻ってこない要因を調査。 ●子どもの頃から千曲市に魅力を感じてもらえるまちづくり。 ●女性が選べる企業を誘致 ●市内に通勤・通学している市外在住の方が千曲市に住みたいと感じてもらえるまちづくり ●技術者など企業が欲しいと思っている働き手を早い段階で確保	●製造業が多い。 ●長野市に比べアパート代が比較的安い。 ●子どもの頃から千曲市に魅力を感じてもらえるまちづくり。 ●交通の要衝	●いったん市外に転出した人にまた戻りたいと思ってもらえるよう市の魅力PRの促進 ●実態調査 ●働く場所、様々な雇用の場の創出	④
社会増減(転出入)	若年層 <実態> ●近年転入が多く、社会増が続いているが、最初から千曲市を選んでくる世帯は3割程度で、そのほとんどが親と同居や夫婦どちらか出身地など千曲市とつながりが深い方が多い。 ●千曲市に縁がない世帯から転入先の候補とされている。 ●転入時に他の市町村も検討していた方の多くは、土地が安いことを理由に千曲市を選んでいる。 ●転入世帯の約半数は子どもがいる世帯。 <理想像> ◆千曲市に縁のない世帯も含め、千曲市への転入者が増加 ◆転入してきた子育て世帯が千曲市にいても理想の子どもの数を持つことができる ◆子育て支援策が充実していることを理由に移住を考える世帯が増加	●土地の値段の安さも含め、子育て世帯に転入先として千曲市を選んでもらえるよう市の魅力をアピール。 ●転入しても子どもを産み育てたいと思える環境の整備 ●生涯支出が抑えられる空き家(中古物件)の購入のサポートをアピール	●製造業が多い ●長野市に比べアパート代が比較的安い。 ●スーパーなどが多く食品等の買い物便利 ●ファミリー・サポート・センター ●子育て支援センター(市内2か所) ●子育て支援施設 ・子育て支援ショートステイ事業 ・子育て支援トワイライトステイ事業 ・レスパイト事業 ・福祉医療費給付事業	●千曲市に縁のない世帯もターゲットとして、転入を促進する ●子を産み育てやすいまちづくり ●子育てに対して安心感のある環境づくり ●子育て支援策のPR ●出産・育児にかかる経済的負担を軽減。	②
	子育て世帯 <実態> ●近年転入が多く、社会増が続いているが、最初から千曲市を選んでくる世帯は3割程度で、そのほとんどが親と同居や夫婦どちらか出身地など千曲市とつながりが深い方が多い。 ●千曲市に縁がない世帯から転入先の候補とされている。 ●転入時に他の市町村も検討していた方の多くは、土地が安いことを理由に千曲市を選んでいる。 ●転入世帯の約半数は子どもがいる世帯。 <理想像> ◆千曲市に縁のない世帯も含め、千曲市への転入者が増加 ◆転入してきた子育て世帯が千曲市にいても理想の子どもの数を持つことができる ◆子育て支援策が充実していることを理由に移住を考える世帯が増加	●調査方法と調査内容を再検討し、若年層が戻ってこない要因を調査。 ●子どもの頃から千曲市に魅力を感じてもらえるまちづくり。 ●女性が選べる企業を誘致 ●市内に通勤・通学している市外在住の方が千曲市に住みたいと感じてもらえるまちづくり ●技術者など企業が欲しいと思っている働き手を早い段階で確保	●製造業が多い ●長野市に比べアパート代が比較的安い。 ●スーパーなどが多く食品等の買い物便利 ●ファミリー・サポート・センター ●子育て支援センター(市内2か所) ●子育て支援施設 ・子育て支援ショートステイ事業 ・子育て支援トワイライトステイ事業 ・レスパイト事業 ・福祉医療費給付事業	●千曲市に縁のない世帯もターゲットとして、転入を促進する ●子を産み育てやすいまちづくり ●子育てに対して安心感のある環境づくり ●子育て支援策のPR ●出産・育児にかかる経済的負担を軽減。	②

(参考) アンケート調査の結果より

- 理想の子の数が持てない理由の1位から3位までを聞いたところ、圧倒的に「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が多かった。また、「収入が低い」は2位の理由として選んでいる人が多いため、全体として2番目に多くなっている
- 「収入が低い」を第2位とした方の86%が「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を第1位に選んでおり、収入が低い方は収入面と支出面の両面をハードルに感じている方が多いことがわかったが、支出面の負担を1番の理由にしていることから、支出面の負担は収入にかかわらず多くの方のハードルになっている

理想の子の数が持てない理由 (1,2,3位の合計)



(参考) 既存の統計データ等からの分析結果

- 合計特殊出生率に大きく影響する25～39歳の日本人未婚率は、19市中唯一、男女共に平成27年より低下した
- 令和2年の日本人女性の5歳階級別未婚率について、5年前からの変化をみたところ、30代、40代は変化度数が大きく、特に30代は19市中一番大きな変化を示した

25～39歳日本人の未婚率について（令和2年）

	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
	%	%	偏差値	偏差値	(H27) %	(H27) %	(率の差) ポイント	(率の差) ポイント
長野県	37.0	51.4			35.7	49.5	1.3	1.8
長野市	38.3	49.2	46.2	60.0	36.9	47.3	1.5	1.9
松本市	37.1	50.3	50.8	56.6	35.5	48.5	1.6	1.9
上田市	35.6	50.6	56.2	55.6	34.4	49.2	1.2	1.4
岡谷市	37.4	52.0	49.6	51.4	35.0	51.3	2.4	0.7
飯田市	33.3	48.4	64.6	62.4	33.1	46.3	0.3	2.1
諏訪市	36.4	52.5	53.4	49.9	34.5	48.2	1.9	4.4
須坂市	36.7	52.0	52.4	51.6	36.8	51.1	-0.1	0.9
小諸市	35.1	50.9	58.3	54.9	34.5	48.3	0.6	2.5
伊那市	38.5	53.6	45.5	46.8	33.3	49.2	5.2	4.4
駒ヶ根市	34.9	52.4	58.8	50.4	34.0	49.9	0.9	2.4
中野市	38.3	52.5	46.3	49.9	35.8	50.0	2.5	2.6
大町市	44.2	59.1	24.6	30.1	38.6	54.3	5.7	4.7
飯山市	42.6	58.9	30.5	30.6	39.4	53.9	3.2	5.0
茅野市	34.7	51.3	59.7	53.7	33.4	49.0	1.2	2.3
塩尻市	34.8	53.3	59.2	47.6	34.3	52.1	0.5	1.2
佐久市	34.2	48.3	61.3	62.8	34.0	48.8	0.2	-0.6
千曲市	36.7	51.8	52.1	52.0	38.9	52.9	-2.1	-1.0
東御市	39.0	52.8	44.0	49.0	34.6	49.2	4.4	3.7
安曇野市	37.6	49.5	49.1	59.1	36.3	48.7	1.3	0.8
坂城町	40.8	60.6	37.3	25.7	37.3	54.0	3.5	6.5

※偏差値は県内19市と坂城町の20市町の実数から算出

令和2年の日本人女性における5年前の
年齢5歳階級別未婚率との差

(ポイント、順位)

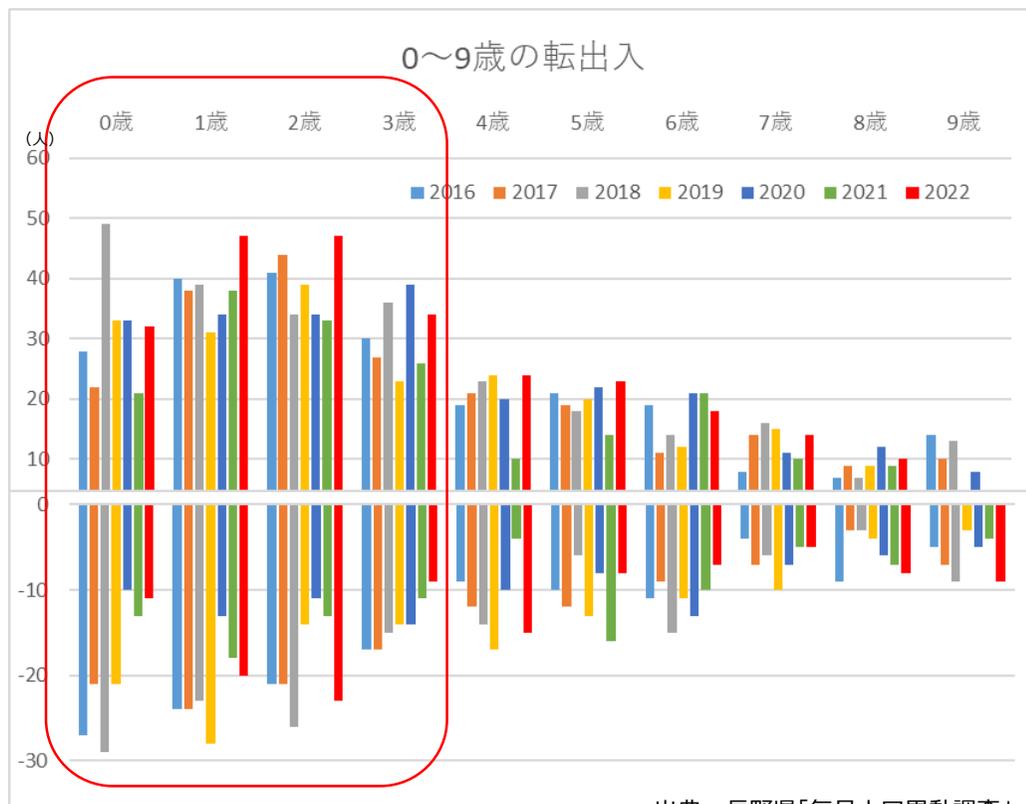
	20～24歳→ 25～29歳	25～29歳→ 30～34歳	30～34歳→ 35～39歳	35～39歳→ 40～44歳	40～44歳→ 45～49歳
	長野県	29.9	26.6	10.6	3.8
長野市	29.8 (10)	26.8 (8)	10.3 (7)	3.6 (9)	1.3 (8)
松本市	30.9 (9)	27.0 (7)	10.3 (8)	3.8 (8)	1.5 (5)
上田市	32.4 (4)	25.6 (10)	10.1 (10)	4.3 (5)	1.9 (1)
岡谷市	31.1 (8)	25.2 (11)	9.5 (14)	3.5 (10)	1.0 (14)
飯田市	32.4 (3)	25.7 (9)	9.1 (15)	3.0 (13)	1.0 (12)
諏訪市	32.3 (5)	24.2 (13)	8.9 (18)	2.9 (16)	1.1 (10)
須坂市	29.8 (11)	28.8 (3)	12.1 (2)	4.8 (4)	1.6 (3)
小諸市	26.5 (16)	27.5 (6)	9.9 (11)	3.0 (14)	1.4 (6)
伊那市	25.0 (17)	23.5 (16)	9.0 (17)	2.7 (17)	-0.1 (17)
駒ヶ根市	34.1 (1)	24.7 (12)	9.0 (16)	4.0 (6)	1.2 (9)
中野市	27.6 (14)	22.6 (17)	9.7 (12)	2.9 (15)	1.3 (7)
大町市	23.7 (18)	22.4 (18)	9.6 (13)	1.7 (18)	-2.0 (18)
飯山市	23.1 (19)	24.1 (15)	11.9 (3)	3.1 (12)	0.9 (15)
茅野市	31.8 (6)	28.3 (5)	10.2 (9)	3.3 (11)	1.6 (4)
塩尻市	32.9 (2)	24.2 (14)	10.7 (6)	5.1 (2)	1.0 (13)
佐久市	31.1 (7)	29.0 (2)	10.9 (5)	3.9 (7)	0.3 (16)
千曲市	28.1 (13)	30.0 (1)	15.1 (1)	5.1 (3)	1.6 (2)
東御市	26.5 (15)	21.9 (19)	7.4 (19)	-2.5 (19)	-2.2 (19)
安曇野市	29.4 (12)	28.4 (4)	11.5 (4)	5.3 (1)	1.1 (11)

出典：総務省統計局「国勢調査結果」

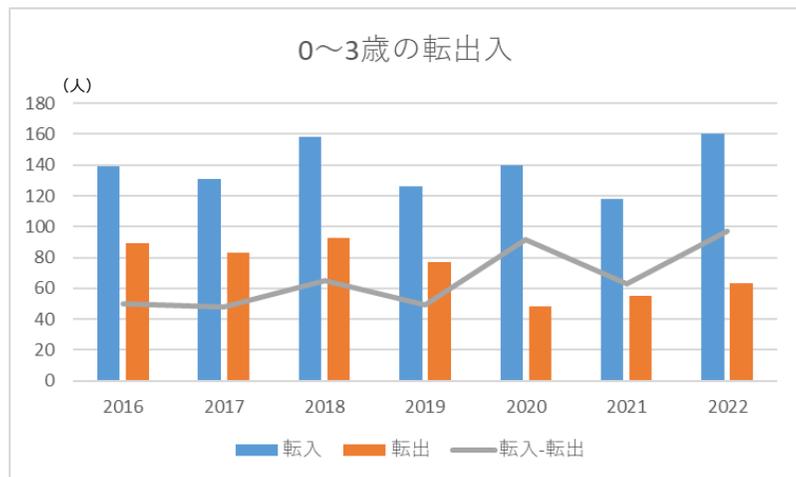
出典：総務省統計局「国勢調査結果」

(参考) 既存の統計データ等からの分析結果

- 子どもの転入は0～3歳が多い
- 2020年以降0歳の転出が抑えられている
- 0～3歳の転出入は緩やかに増加傾向



出典：長野県「毎月人口異動調査」



出典：長野県「毎月人口異動調査」

転入-転出 (人)	2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2021年 2022年						
	0歳	1	1	20	12	23	8
1歳	16	14	16	3	21	20	27
2歳	20	23	8	25	23	20	24
3歳	13	10	21	9	25	15	25
4歳	10	9	9	7	10	6	9
5歳	11	7	12	7	14	-2	15
6歳	8	2	-1	1	8	11	11
7歳	4	7	10	5	4	5	9
8歳	-2	6	4	5	6	2	2
9歳	9	3	4	2	3	1	-6

出典：長野県「毎月人口異動調査」

(参考) 既存の統計データ等からの分析結果

- 20～59歳就業者の昼夜間人口比を県内19市で比較したところ、千曲市は最も低かった。(昼間の人口の方が少ない=市外に働きに出ている)
- 昼夜間人口比の年齢5歳階級別では男女共どの階級も低い。

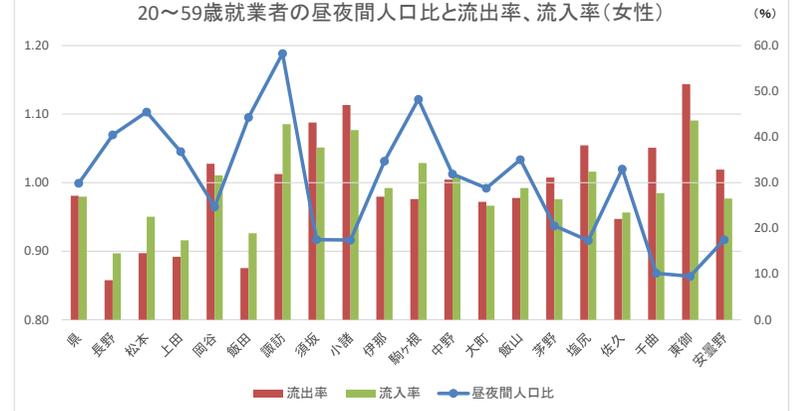
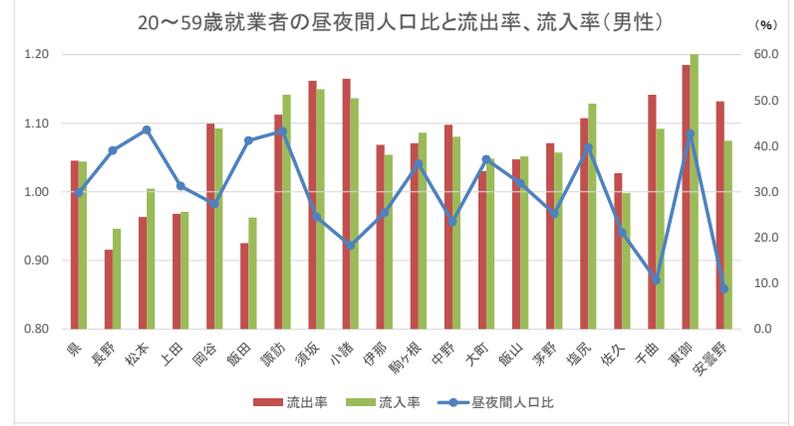
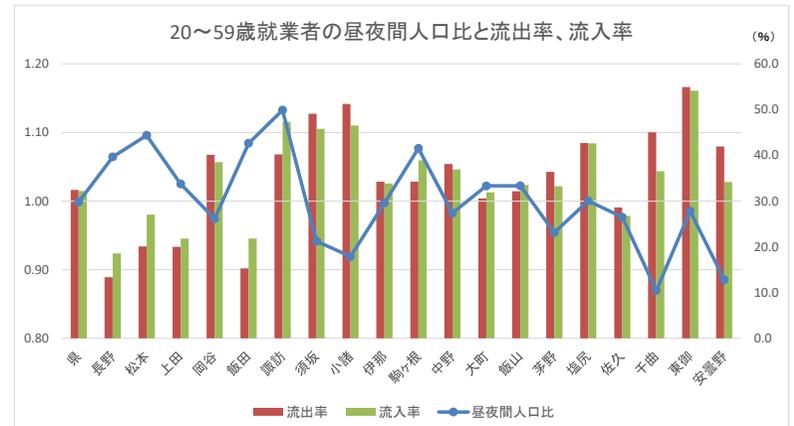
長野県及び県内19市における20～59歳就業者の昼夜間人口比

総数	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	
諏訪	1.17	松本	1.10	松本	1.10	諏訪	1.11	諏訪	1.18
松本	1.16	諏訪	1.10	駒ヶ根	1.09	駒ヶ根	1.12	駒ヶ根	1.10
飯田	1.10	飯田	1.08	飯田	1.08	松本	1.09	松本	1.09
長野	1.09	駒ヶ根	1.07	諏訪	1.07	飯田	1.09	長野	1.08
駒ヶ根	1.09	長野	1.07	大町	1.06	大町	1.06	塩尻	1.07
上田	1.04	飯山	1.04	飯山	1.05	飯山	1.05	飯山	1.04
茅野	1.04	上田	1.03	東御	1.05	長野	1.05	塩尻	1.04
佐久	1.02	茅野	1.02	飯山	1.04	東御	1.05	大町	1.04
県	1.00	県	1.00	上田	1.02	上田	1.02	中野	1.04
伊那	0.99	佐久	1.00	伊那	1.01	伊那	1.00	伊那	1.02
大町	0.96	伊那	1.00	同谷	1.00	伊那	1.00	飯山	1.01
須坂	0.96	同谷	0.99	同谷	0.99	須坂	1.00	須坂	1.00
飯山	0.95	東御	0.97	県	1.00	伊那	0.98	佐久	0.99
中野	0.93	大町	0.97	佐久	0.97	佐久	0.98	佐久	0.99
塩尻	0.90	須坂	0.96	須坂	0.94	須坂	0.95	須坂	0.99
同谷	0.89	塩尻	0.90	安曇野	0.91	中野	0.95	小諸	0.94
東御	0.86	中野	0.90	千曲	0.89	茅野	0.93	須坂	0.94
安曇野	0.83	安曇野	0.89	塩尻	0.89	小諸	0.90	須坂	0.92
小諸	0.81	小諸	0.88	中野	0.89	千曲	0.91	安曇野	0.88
千曲	0.78	千曲	0.83	小諸	0.88	安曇野	0.90	安曇野	0.87

男性	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	
松本	1.13	飯山	1.09	東御	1.18	塩尻	1.11	東御	1.21
諏訪	1.12	松本	1.08	大町	1.15	諏訪	1.09	東御	1.11
駒ヶ根	1.10	東御	1.07	駒ヶ根	1.09	松本	1.09	松本	1.10
飯田	1.09	茅野	1.07	松本	1.08	駒ヶ根	1.09	大町	1.10
茅野	1.08	飯田	1.06	飯田	1.07	飯田	1.08	飯田	1.09
長野	1.06	駒ヶ根	1.05	長野	1.04	飯田	1.08	長野	1.02
上田	1.03	諏訪	1.04	飯山	1.03	松本	1.06	駒ヶ根	1.06
大町	1.03	須坂	1.04	茅野	1.02	飯山	1.04	上田	1.01
須坂	1.02	同谷	1.04	同谷	1.02	長野	1.04	長野	1.00
佐久	1.01	長野	1.04	県	1.00	同谷	1.01	伊那	1.00
中野	1.00	大町	1.02	上田	1.00	上田	1.01	上田	1.00
県	1.00	上田	1.02	諏訪	1.00	伊那	0.97	大町	0.98
伊那	0.94	県	1.00	須坂	0.97	須坂	0.98	中野	0.97
塩尻	0.94	佐久	0.95	佐久	0.94	茅野	0.95	同谷	0.96
東御	0.93	塩尻	0.94	伊那	0.93	伊那	0.95	須坂	0.96
同谷	0.92	伊那	0.94	塩尻	0.94	茅野	0.94	茅野	0.96
飯山	0.89	須坂	0.92	千曲	0.83	佐久	0.92	同谷	0.95
安曇野	0.86	安曇野	0.81	安曇野	0.90	千曲	0.91	佐久	0.93
千曲	0.81	中野	0.90	小諸	0.90	千曲	0.92	安曇野	0.82
小諸	0.79	千曲	0.88	中野	0.87	安曇野	0.89	安曇野	0.84

女性	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	
諏訪	1.21	諏訪	1.17	諏訪	1.18	諏訪	1.17	諏訪	1.14
松本	1.20	松本	1.13	松本	1.12	駒ヶ根	1.15	駒ヶ根	1.14
長野	1.12	飯田	1.10	伊那	1.11	飯田	1.11	中野	1.11
飯田	1.10	長野	1.10	飯田	1.09	松本	1.10	松本	1.07
駒ヶ根	1.07	駒ヶ根	1.07	長野	1.08	長野	1.07	中野	1.06
上田	1.05	伊那	1.07	駒ヶ根	1.07	飯田	1.06	飯田	1.06
伊那	1.04	上田	1.05	飯山	1.05	飯山	1.05	飯山	1.06
佐久	1.03	佐久	1.05	上田	1.04	上田	1.03	飯山	1.06
飯山	1.02	県	1.00	佐久	1.01	大町	1.02	佐久	1.05
県	1.00	飯山	0.98	県	1.00	県	1.00	大町	1.02
茅野	0.99	茅野	0.96	同谷	0.98	伊那	1.00	伊那	1.03
須坂	0.89	同谷	0.92	茅野	0.97	同谷	0.97	同谷	1.01
大町	0.88	大町	0.90	中野	0.96	中野	0.96	伊那	1.00
中野	0.86	中野	0.90	安曇野	0.91	小諸	0.92	塩尻	0.95
同谷	0.86	須坂	0.87	中野	0.91	須坂	0.93	同谷	0.97
塩尻	0.86	安曇野	0.87	須坂	0.90	茅野	0.94	小諸	0.96
小諸	0.83	東御	0.85	東御	0.86	安曇野	0.91	茅野	0.94
安曇野	0.81	塩尻	0.84	小諸	0.84	千曲	0.89	千曲	0.94
東御	0.77	小諸	0.83	千曲	0.84	千曲	0.89	須坂	0.93
千曲	0.74	千曲	0.76	塩尻	0.82	塩尻	0.89	東御	0.85

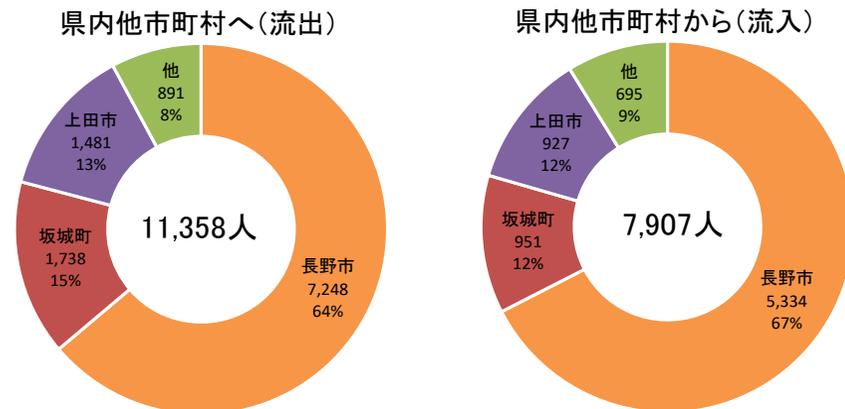
出典：総務省統計局「平成27年国勢調査 従業地・通学地集計」



出典：総務省統計局「平成27年国勢調査 従業地・通学地集計」 22

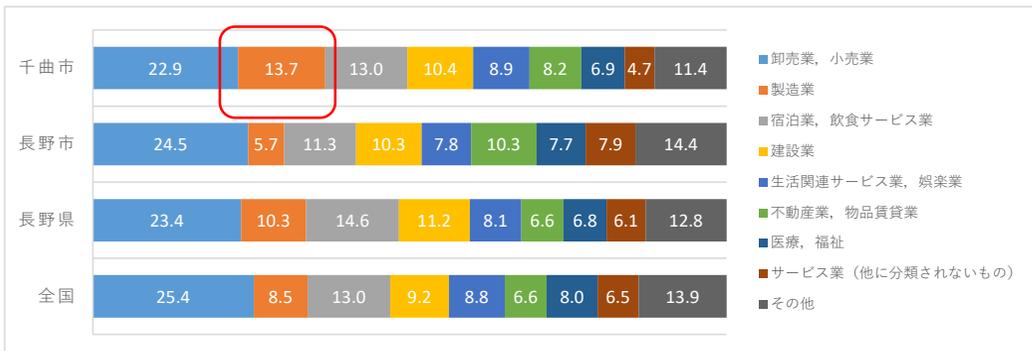
(参考) 既存の統計データ等からの分析結果

- 就業者全体の流出入状況は、長野市が流入、流出共に6割以上を占めている。
- 事業所数について、千曲市は長野県や全国と比べて「製造業」の割合が高い。
- 従業者数割合の特化係数では、製造業が非常に高く、サービス業（他に分類されないもの）が低い。また、県でやや高い建設業が千曲市では低い。



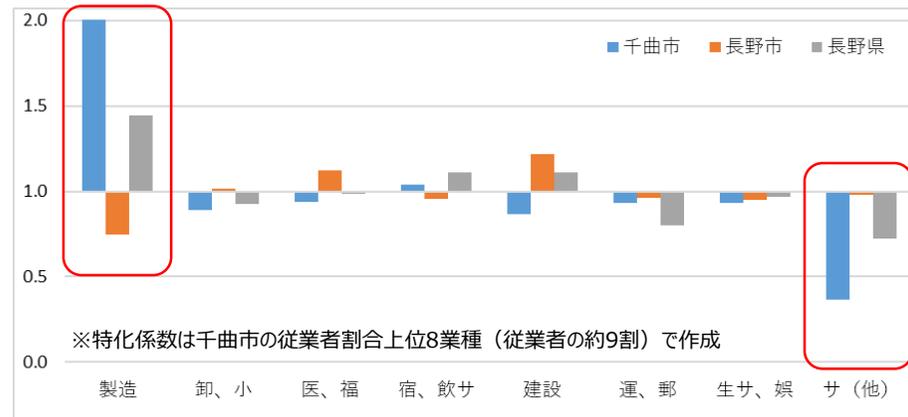
出典：総務省統計局「平成27年国勢調査 従業地・通学地集計」

事業所数割合



出典：総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査結果」

従業者数割合 特化係数



出典：総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査結果」